

愛媛県歴史文化博物館

No.45

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture's News

平成18年度テーマ展

近代えひめのやきもの

印判手のわん・さら・はち

型紙染付や銅版転写によって絵付けされた、近代の印判手のやきものを特集します。

砥部焼・御荘焼・三間焼など各地域のやきものの魅力を再発見していただければ幸いです。



□写真展 日本の文様

□季節モノ図鑑

毛植人形

□ちえのわ教室

□学芸員調査ノート

豎杵

秋祭りの「お多福」面

凹石

豫州大洲好人録

□ボランティア募集

□友の会NEWS

□INFORMATION

型紙染付鳳凰文皿
近代 砥部焼伝統産業会館蔵



砥部・坂本窯跡出土樹下唐子、鳳凰に桐文鉢
(砥部焼伝統産業会館蔵)



砥部・鳳凰に桐文鉢用型紙 (個人蔵/当館保管)

近 代 え ひ め の や き も の

印判手のわん・さら・はち

平成18年4月22日[土]~6月11日[日]

濃いコバルトブルーの細かな文様のやきものを
目にしたことはありませんか? 「印判手(いんぱ
んで)」とよばれる近代のやきものには、型紙摺
絵や銅版転写による新しい絵付け技法が用いられ
ています。明治期の砥部では、量産化を図るため
絵付けの効率化を行い、印判手の碗、皿、鉢など
は、庶民の生活を支える身近なやきものになりま
した。さらに、海外へも輸出され、日本有数の窯
業地として発展しました。

印判手の産地は、九州有田や瀬戸・美濃、県内
では砥部が知られていますが、南予の御荘や、近
年の調査により、三間(宇和島市)でも焼成され
ていたことがわかってきました。印判手の実態は、
まだまだ謎が多いのが現状です。

本展では、砥部で使われたやきもの用の型紙や、
愛媛の窯跡から採集された資料を中心に紹介しま
す。印判手は独特の色合いや庶民に親しまれたさ
まざまな絵付け文様も魅力の一つです。愛媛のや
きもの文化を再認識するきっかけとなれば幸い
です。



銅版鶴松文徳利 (使用地八幡浜市・当館蔵)

- I 絵付けの近代化—手描きから型紙、銅版転写へ
- II 庶民のやきもの—印判手
- III 印判手の世界 型紙・銅版転写紙の美
- IV 掘り出されたえひめの近代印判手のやきもの
砥部町砥部焼、伊予市三島焼、愛南町御荘焼、
八幡浜市宮内焼、宇和島市三間焼、東温市則之内焼他

小特集：近代陶工 五十崎芳太郎

体験コーナー：窯道具パズルをやってみよう

映像：「砥部焼のできるまで」

関連事業（事前の申し込みは不要です）

□講演会「砥部の磁器史」

山本典男氏（砥部焼歴史研究者）

日時：5月28日(日)13:30～15:00

場所：オリエンテーションルーム

□実演「ロクロ成形実演」

白潟八洲彦氏（砥部焼伝統工芸士）

日時：5月3日(水・祝)10:30～、13:30～

場所：エントランスホール

□講座「印判手の考古学」

石岡ひとみ（当館学芸員）

日時：4月29日(土)13:30～15:30

場所：オリエンテーションルーム

□ワークショップ 型紙摺絵で絵葉書をつくろう

日時：5月5日(金・祝)13:00～15:00

場所：エントランスホール

実費：100円

□展示解説会

日時：4月22日(土)、5月14日(日)、6月3日(土)

各日13:30～

場所：企画展示室

テーマ展

近代えひめのやきもの

印判手のわん・さら・はち

会期：平成18年4月22日(土)～6月11日(日)

休館日：毎週月曜日

(ただし、5月1日(月)は開館)

会場：企画展示室

観覧料：常設展示観覧料が必要です

*中学生以下、65歳以上の方は無料



型紙染付花文蓋付碗（使用地八幡浜市・当館蔵）



三間焼（当館蔵）

三間焼窯跡出土窯道具（当館蔵）



砥部・菊花文皿銅版転写紙（個人蔵／当館保管）



砥部・鯛文碗用型紙（個人蔵／当館保管）

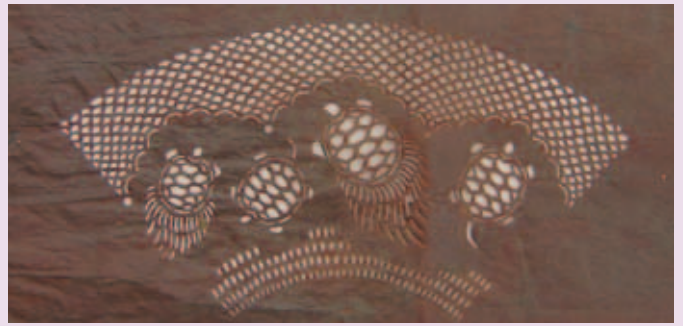


毛植人形は、絹糸（すが糸）でできた毛を丁寧に張り子の体に貼りつけて作られ、目にはガラスがはめ込まれています。別名「いと細工」とも呼ばれ、京都の特産品の一つで、明治時代には輸出品としても人気がありました。製作には手間がかかるため、あまり大きなものはみられず、主に犬・猿・兔など小型の動物がモチーフとなっています。西条藩松平家には、犬に乗る猿や座り姿の犬、つながれた紐に戯れる子犬の五体が伝わっており、その愛くるしいしぐさには、思わず歓声がこぼれます。毛植人形は小さく愛らしい姿から雛人形と一緒に飾られました。

（学芸員 宇都宮美紀）

季節
モ図鑑 ⑧
毛植人形
けうえにんぎょう

写真展のごあんない



砥部・養亀文碗用型紙（個人蔵／当館保管）

日本の文様

—文様になった生きもの達—

4月22日「土」から6月11日「日」まで、当館エントランスロビーにおいて日本の文様をテーマにした写真展を行います。愛媛に残された「やきもの」や「染型紙」（きものや陶磁器に文様を染めつける際に使用する道具）の写真と、その文様のモデルとなった生きもの達の写真を展示します。「やきもの」や「染型紙」は、生きもの達のユーモラスな姿や美しい造形を創造の源とし、巧みな技術で製作されています。生き生きとした動物の写真と、見事にデザイン化された陶磁器や染型紙の写真を一緒に見ていただくことで、文様の面白さや込められた気持ちに触れていただければ幸いです。

（学芸員 松井 寿）

ちえのわ教室

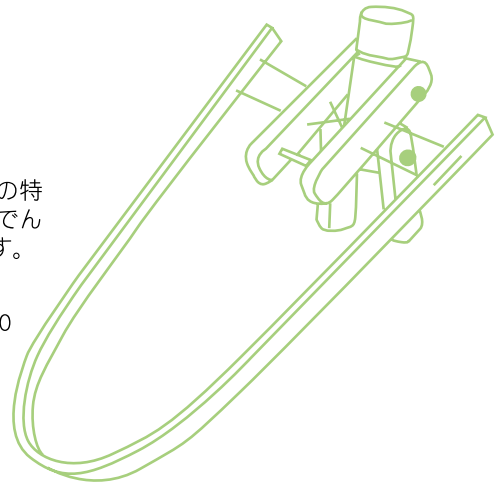


からくりおもちゃ たいそう人形を つくろう！！

3月～5月のちえのわ教室では、竹の特徴であるしなやかなバネを使って、でんぐり返りするたいそう人形を作ります。

日時：毎週土・日曜日 13:00～16:00
（受付は15:00まで）

場所：体験学習室
参加費：150円（材料費）
お問い合わせ：振興課企画普及係
0894-62-6222



*毛植人形はテーマ展「おひなさま」にて展示しています。

しまなみ海道の建設に伴い発掘調査が行われた今治市の矢田八反坪遺跡では、遺跡を南北に貫く弥生時代から古墳時代後期にかけての旧河道が見つかっています。そこからは多種多様の遺物が約七万六千点出土しました。これはそのうちのひとつで、アカガシという木の、芯を外した部分を使用し、握る部分に凸帯を施した堅杵です。

月で餅を搗ういでいるとされる兎うさぎが持っているのがこれで、現在でも時折見かける柄のついた杵（横杵）より古く、約二三〇年前から用いられていました。弥生時代は、秋になると稲穂の穂首いしほうちゅうを石庖丁で摘み取り、高床倉庫に貯蔵しました。そして米を食べる時、必要な量を穂のまま木の臼に入れ、堅杵で搗いて脱穀しました。

当時の重要な生活道具であった堅杵ですが、愛媛県内の遺跡からはほとんど出土しておらず、ほぼ完全な形で見つかったのは、この資料が初めてです。

（主任学芸員 亀井英希）



資料名

たてぎね
堅杵

（今治市矢田八反坪遺跡出土）

年代

弥生〜古墳時代

サイズ

全長一三五cm／直径七cm

所蔵

愛媛県教育委員会蔵

西予市野村町阿あ下地区から当館に寄託されている張り子製の「お多福」面です。三島神社の秋祭りの神輿行列に伴って、地元もとの成年男子が女性の衣装を着て、この面をかぶって地区内を練り歩きます。行列にはもう一人「助夫すけお」と呼ばれる男性面をかぶった者も登場しますが、「お多福」と「助夫」は男女の陰陽物をかたどった棒を持って歩きます。豊穰を祈願する意味があるのでしょう。面は平成一五年に新調され、江戸時代末期

から使用されていたこの面・道具類が当館に寄託されました。面の内側には墨書があり、安政二（一八五五）年に宇和島の森田屋儀右衛門もりた やいそ へんが製作したことがわかります。彼は江戸時代末期に張り子職人として南予地方各地の鹿踊りの面を製作しており、宇和島市裡町一丁目の鹿面（宇和島市立伊達博物館蔵）、西予市城川町下相の鹿面（西予市城川歴史民俗資料館蔵）などが現存しています。

（主任学芸員 大本敬久）



資料名

あきまつ
秋祭りの「お多福」面

年代

安政二（一八五五）年

サイズ

幅三一cm／奥行三九cm
高二八、五cm

所蔵

阿下組（当館保管）

*堅杵は歴史展示室1（「愛媛のあけぼの」）に展示しています。
*秋祭りの「お多福」面は民俗展示室1（「愛媛の祭り」）で展示しています。



資料名
凹石
くぼみいし

(四国中央市長命寺遺跡出土)

年代

縄文時代早期

サイズ

(左) 長一三、一 cm

幅八、九 cm

所蔵

愛媛県教育委員会蔵

一見、普通の河原石のようですが、これは凹石と呼ばれる道具で、長命寺遺跡から出土しました。石の片面もしくは両面の中央に1〜2箇所、浅い凹みを加工しているのが特徴で、用途はこの凹みを利用してドングリ等の堅果類を割るのに使っていたと考えられています。

これは遺跡周辺で採取できる扁平の結晶片岩を用いて作られており、この他にも二〇点近くが縄文時代早期の土器とともに出土しています。現在では森林

伐採等により、木の実を多く収穫できる森も少なくなりましたが、同時期の上黒岩陰遺跡(久万高原町)や須川丸山遺跡(八幡浜市)等でも大量の凹石が出土していることから、当時は居住域周辺で豊富に採れる堅果類を食料資源として重視していたと考えられます。

また隣接する医王寺Ⅲ遺跡では、狩りに使ったとされる落とし穴状遺構も発見されており、獣や山の幸を求めて野山を駆ける縄文人の姿が想像できます。

(学芸員 兵頭 勲)



資料名

豫州大洲好人録
よしゅうおおざこうじんろく

年代

寛政一一(一七九九)年

サイズ

縦二二、八 cm × 横一六 cm

所蔵

兵藤正帛氏所蔵・当館保管

大洲地方では、江戸時代において、中江藤樹を祖とする陽明学が、人々の間に深い根をおろしました。陽明学は、家族や地域の人々に対して孝心で接することを重んじた学問でした。

本資料は、大洲藩校明倫堂の初代教授をつとめた川田雄琴が、老父母の世話をしたり、貧しい人々に施しを行なったりして藩から表彰された孝行・善行者を収録・編集したものです。文中には挿絵を入れ、漢字にはふりがなをふって読み易くしています。大

洲藩では、本資料を領内の町人寄や庄屋等に配布し、町人・百姓すべてに読み聞かせるように指導し、学問の普及につとめました。

初版は、延享二(一七四五)年に、雄琴が序文を記して刊行されました。寛政異学の禁に陽明学が規制されるにあたって、寛政一一(一七九九)年、昌平黷出身の同藩士安川右仲が雄琴の序文を残しつつ、新たに序文と巻末に「教示」を記して刊行しました。

(学芸員 安永純子)

*凹石は考古展示室に展示しています。
*豫州大洲好人録は文書展示室に展示しています。

募 集

愛媛県歴史文化博物館ボランティア

歴史が好きな方や人と触れあうのが好きな方、ボランティアに興味のある方などで当館でボランティア活動を行ってみようと思う方は是非ご参加ください。

ボランティアの活動内容

- (1)常設展示及び企画展示・テーマ展示等における展示案内
 - (2)体験学習室における「ちえのわ教室（手作りおもちゃの工作教室）」の体験事業補助
 - (3)その他博物館の運営を支援する活動
- ※活動時間は、博物館の開館時間（9：00～17：00）を基本になりますが、希望に応じ1時間単位での活動も可能です。
- ※ボランティア登録者に対しては、活動1時間に対して1「いよ」シールを交付します。（ボランティア登録者への交通費・昼食及び報酬はありませんので、ご了承下さい。）

ボランティア研修について

ボランティア登録者に対しては4月中旬～7月上旬にかけてボランティア研修を当館において10回程度実施します。

応募方法

所定の用紙に必要な事項を記載の上、郵送・FAX・電子メールで申し込みをお願いいたします。

※所定の用紙については、当館にご連絡頂ければ郵送いたします。

また、当館のホームページからもダウンロードが可能です。

ホームページアドレス <http://joho.ehime-iinet.or.jp/rekihaku/>
メールアドレス rekishi-museum@pref.ehime.jp

応募締切 平成18年3月31日（金）まで

募集人員 20名程度

お問い合わせ・お申込

愛媛県歴史文化博物館 振興課企画普及係
TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

友の会NEWS

友の会では、新年度の会員を募集しています。

友の会は、博物館を利用して愛媛の歴史や民俗に親しみ、会員相互の親睦を深めることを目的としたみなさんの会です。主な特典は常設展示の無料観覧や博物館だよりの送付、友の会の主催事業への参加などがあります。平成17年度より中世クラブ・民俗クラブの活動がはじまり、会員相互の学習活動も加わりました。会費、入会方法は次のようになっていますので、ぜひこの機会にご入会ください。

なお、現在会員の方は、新年度も友の会活動にご協力いただきますようお願いいたします。

■友の会特典

- ①常設展示の無料観覧
- ②『友の会会報』『歴博だよりの』等刊行物の送付
- ③友の会刊行物の割引販売
- ④現地学習会など友の会主催行事への参加
- ⑤博物館行事のお知らせ
- ⑥クラブ活動の実施（中世・民俗）

■会費

区 分	会 費
個人会員（中学生以下）	2,000円
個人会員（高校生以上）	3,000円
家族会員	4,000円
賛助会員	10,000円

■入会方法

会費をご持参の上、歴史文化博物館に直接お申し込みいただくか、郵便振替払込取扱票に、名前・住所・郵便番号・会員の種類を記入の上、郵便局で会費をお振り込みください。

■口座番号

01610-0-45873 愛媛県歴史文化博物館友の会
(ご入金をご確認後、会員証をお送りします)

お問い合わせ

愛媛県歴史文化博物館内
友の会事務局 TEL(0894)62-6222

展示スケジュール2006.4~12

常設展示

企画展示

4

テーマ展

印判手の わん・さら・はち

4月22日[土]～6月11日[日]

型紙染付や銅版転写によって絵付けされた近代えひめのやきものを特集します。

5

歴史

6

7

民俗

企画展

昭和の観光旅行 (仮)

7月11日[火]～9月3日[日]

昭和の観光地にむけて時間旅行に出発。楽しかった旅のキオクがきっとよみがえります。

8

展示

9

企画展

ときめくファッション (仮)

10月4日[水]～11月26日[日]

江戸の小町娘から昭和のモダンガールまで、女性たちが楽しんだおしゃれの世界へご案内します。

10

展示

11

12

*会期は変更される場合があります。

特別講座

山本信吉名誉館長特別講座

「文字が語る日本の文化」

当館の山本名誉館長が、専門としている日本の文字及び書の歴史と特質を貴重なスライドを使ってわかりやすく解説します。

5月18日(木)
13:30～15:30

第1回 日本語を伝えた最初の漢字
—古墳時代の書—

6月15日(木)
13:30～15:30

第2回 紙に書かれた最古の文字
—聖徳太子の書を考える—

7月20日(木)
13:30～15:30

第3回 天平写経を鑑賞する
—完成された楷書の美—

8月17日(木)
13:30～15:30

第4回 唐風と和風の書
—草書の世界の成立—

9月21日(木)
13:30～15:30

第5回 装飾経が画く王朝の美
—法華経の世界—

10月19日(木)
13:30～15:30

第6回 平安時代から鎌倉時代へ
—貴族と武士と僧侶の書—

*期日やテーマは変更される場合があります。

- ◆対象：一般
- ◆受講料：無料
- ◆申込方法

山本名誉館長特別講座と明記し、ご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入の上、当館で直接申し込むか、葉書やFAXなどでお申し込みください。

お問い合わせ

振興課 企画普及係

TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

〒797-8511

愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2

テーマ展

おひなさま展

—人形と雛道具の歴史—

平成18年2月21日[火]→4月9日[日]

西条藩松平家の雛飾りをはじめ、さまざまな種類の雛飾りや人形、ままごと道具などを紹介します。



今季の表紙

型紙染付鳳凰文皿 近代 砥部焼伝統産業会館蔵

細かい文様を切り抜いた型紙に、色鮮やかな酸化コバルトを用いて絵付けされた皿。見込みいっばいにデザインされた鳳凰は桐の木に棲む伝説上の鳥で、安寧な暮らしを願う人々の憧れの文様でした。砥部・向井窯跡からも同じ文様の皿が採集されています。近代の砥部は、型紙染付の技術により量産化を図り、窯業地として発展しました。

愛媛県歴史文化博物館

No.45

歴博だより
Museum of EHIME History and Culture's News

発行日 平成18年3月22日

編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

〒797-8511

西予市宇和町卯之町四丁目11番地2

TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

http://joho.ehime-iinet.or.jp/rekihaku

印刷 明星印刷工業株式会社